



徴古館報 第34号 2017年(平成29年)7月発行



鍋島直茂像(部分) 江戸時代 三浦子璨筆

公益財団法人 鍋島報効会

「藩祖鍋島直茂公と日峯社」展



徴古館では平成29年5月29日(月)から7月29日(土)まで第80回企画展「藩祖鍋島直茂公と日峯社」展を開催しています。佐賀藩主としての鍋島家の基礎を築いた藩祖直茂公(1538～1618)の没後400年を機に、その業績と後世における藩祖顕彰の様相を探る展覧会です。



朝鮮軍陣図屏風(第三回/部分) 公益財団法人鍋島報効会 所蔵

直茂公の朝鮮出兵

文禄の役にあたり渡海した直茂。また慶長の役では1万2千人の軍勢を率いて、勝茂とともに父子で参戦しました。加藤清正らが籠城戦を余儀なくされた蔚山城の戦いでは、救援に駆け付けた日本軍は直茂の提言により夜襲を敢行し、清正らは九死に一生を得たとされています。こうして数々の戦功を挙げながら、龍造寺家臣団からの信望も次第に厚くなり、紐帯が強化されました。

佐賀藩主鍋島家の成立

直茂が長崎代官となる一方で、天正18年(1590)に政家は秀吉から隠居を命じられますが、家督を相続した高房は当時6歳。直茂は龍造寺家の存続のため、小早川隆景に頼み込むなどして高房の将来の道筋が整うよう尽力。しかしその甲斐も虚しく、慶長12年(1607)3月、高房は夫人を刺殺し自殺を図り、その傷がもとで9月に23歳の若さで没し、政家もその翌月に没しました。同年、徳川家康の命により、直茂の息子である勝茂が高房の家督を相続して初代佐賀藩主となり、名実ともに佐賀藩主鍋島家が成立しました。

神となった直茂公

元和4年(1618)、直茂は81歳で病没(法名:高傳寺殿日峯宗智大居士)。のち明和9年(1772)には8代藩主鍋島光茂により創建された日峯社(現・松原神社)に祀られました。その言行や遺訓は、歴代の藩主たちに「二十一ヶ条御壁書」や聞書などの形で受け継がれました。2代藩主鍋島光茂に仕えた山本常朝は、のちに5代藩主となる神代直堅(鍋島宗茂)に対して「釈迦・孔子よりも日峯様を御手本に遊ばされ候が、御家御長久にて御座有るべく候」などと書き贈り、将来の藩主の心得として、直茂に学ぶ必要性を説いています。また、山本常朝による口述などをもとに田代陣基が編集し、享保元年(1716)に成立した武士道論「葉隠」は、藩士たちの間で広く読み継がれたとされています。幕末の10代藩主鍋島直正は直茂と勝茂の公譜考補を編纂。のちに11代藩主となる直大にも、二十一ヶ条の遺訓や、直茂の御咄を勝茂が書き留めた聞書を手渡し、それらを「得と拝見、熟読致され候ように」と念を押すほどでした。直正は慶応3年(1867)に没後250年を迎えた直茂の祭礼を城下町人に特別許可するなど、直茂は顕彰され、その遺訓も受け継がれていきました。



展示室の様子

龍造寺家の有力家臣

戦国時代に肥前を領した龍造寺氏は、龍造寺隆信の時代にもっとも領国を広げ、豊後の大友氏、薩摩の島津氏と並び九州を三分するほどの勢いでした。もともと隆信とは従兄弟の関係にあった鍋島直茂ですが、親同士の間により義兄弟となりました。元龜元年(1570)の今山の戦いで夜襲など、有力な家臣として武功を重ねています。また、本展で初めて展示した豊田秀吉から直茂に宛てた密書によると、隆信存命中から、すでに秀吉に書状や南蛮帽子を贈るなどして直接よしみを通じていたことがわかります。



龍造寺隆信像 公益財団法人鍋島報効会 所蔵

隆信公の戦死後、国政をリード

天正12年(1584)、隆信は沖田畷の戦いで戦死し、その家督は子の政家が相続しました。ただし、政家は病気がちということもあり、次第に直茂が国政をリードするようになりました。天正15年(1587)、秀吉による九州平定の直後におきた肥後国人一揆に際し、秀吉は「龍造寺(政家)ならびに其方(直茂)」に鎮圧のための動員を命じる朱印状を下しており、直茂に対する期待のほどがうかがえます。その翌年、秀吉は直轄地である長崎代官に直茂を任命するなど、その主従関係は公的なものとなっていきました。

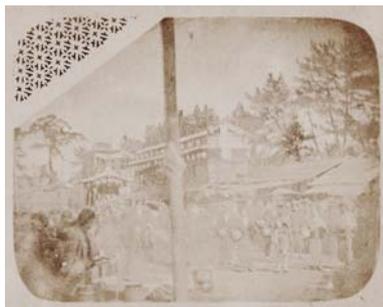
平成29年3月4日(土)

鍋島直正公銅像除幕式

大正2年(1913)、10代藩主鍋島直正公(1814~71)の生誕100年を記念して佐賀市松原に建設された銅像は、戦時中に供出されました。生誕200年を迎えた平成26年に銅像再建のための募金活動が開始され、各方面からのご寄附により、このたび完成。平成29年3月4日(土)の除幕式では、鍋島家15代ご当主をはじめ来賓や関係者、市内の小学生たちの手により幕が除かれ、73年ぶりにその英姿が現れました。総高8m超の巨像が西を向いて建つのは佐賀城二の丸跡。直正公が藩主就任直後、藩内をまとめる上で特に苦心した時期を過ごした場所です。一丸となって偉業を成し遂げた幕末佐賀藩を象徴する存在として、長崎、そして世界を見据えつつ、佐賀のまちを見守り続けることでしょう。



新発見! 幕末佐賀城下の古写真



慶応3年(1867) 藩祖鍋島直茂公250年祭礼(3枚)

当会が所蔵する鍋島家伝来資料には、数千点~1万点にのぼる古写真資料が含まれています。その中から慶応3年(1867)に日峯社(松原神社)で行われた藩祖鍋島直茂公二百五十年祭礼を写したとみられる古写真の存在が確認されました。これは「藩祖鍋島直茂公と日峯社」展に向けた資料調査の中で明らかになったもので、佐賀城下の賑わいを写した江戸時代に遡る写真として初めてのものです。企画展開催初日の5月29日(月)に記者発表を行ったところ、大勢の取材陣にお越しいただき、その後大きな反響をよびました。なお、古写真は同展で初公開しています。



明治初期の松原神社(上の3枚と共に伝来)

研究助成事業

鍋島報効会では平成13年度より、郷土佐賀の研究を奨励し、その成果を地域に還元することを目的に、一般公募による研究費の助成を行っています。

【4月4日】 第17回研究助成授与式

平成29年度は3名の方に決定し、徴古館で授与式が執り行われました。授与者・研究テーマは以下の通りです。多々良友博「戦前期佐賀県内炭鉱に関する基礎データ整備」／山崎頼人（小郡市埋蔵文化財調査センター）「環有明海地域における弥生時代の日韓交流～交流拠点としての環有明海地域の評価～」／佐藤大規（広島大学総合博物館）「佐賀藩および親藩等における御殿建築の変遷」



【6月3日】 第16回研究助成報告会

昨年度(平成28年度)に助成を受けた5名の方により、佐賀の歴史・考古や文学、陶磁器など多岐にわたる報告が行われ、熱心に聞き入った61名の方からの拍手が響きました。また、各報告に対し当財団の高島忠平(理事・徴古館長)と大園隆二郎(評議員)より講評・助言がありました。今回の報告内容を含む研究報告書 第8号は、今年の秋に刊行予定です。



平成29年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

古地図で佐賀城下の魅力再発見!

平成29年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「古地図で佐賀城下の魅力再発見!」が本年度も採択され、今年で9年目となりました。本事業は、当館が核となり市民団体や佐賀県・佐賀市などと組織する「さが城下まちづくり実行委員会」による事業で、城下絵図など古地図を中心とした収蔵資料を活用して郷土の歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げることを目的としています。

なかでも、江戸時代の古地図などを掲載した冊子を片手に、解説を聞きながら楽しむまち歩き「佐賀城下探訪会」は毎年恒例となった人気イベント。5月21日(日)には今年度第1回目となる「藩祖鍋島直茂公ゆかりの地」を開催し、80名の方にご参加いただきました。

今後の予定 10月1日「佐賀藩初代藩主と子供たち」
11月5日「小城の歴史と史跡 バスツアー」
12月3日「佐賀城下の水系 西めぐり」



平成29年度第1回(通算34回)探訪会「藩祖鍋島直茂公ゆかりの地」(於 興賢神社)

展示・イベント案内

第81回展 小城鍋島家創設400年記念 「佐賀藩初代藩主の子供たち」展

【会期】平成29年9月4日(月)～11月4日(土)
平成29年は、初代佐賀藩主鍋島勝茂の長男・元茂もとしげが小城鍋島家を創設して400年。これを機に、初代藩主による一門の創設を中心とした藩政の基盤づくりを辿ります。

第23回 プレイエル小音楽会

朝香宮鳩彦王やすひこおウの第一王女紀久子様が昭和6年(1931)、13代鍋島直泰様に降嫁される際に婚礼調度としてフランスで誂えられたピアノ「プレイエル」による小音楽会を開催します。今回はピアノとヴァイオリンの協演です。

【月日】平成29年9月24日(日)

【時間】午前の部 11時～／午後の部 14時～

【料金】1,500円(企画展もご覧いただけます)

【演奏】ヴァイオリン 荒川 友美子さん(九州交響楽団 団員)

ピアノ 須田 美穂さん(洗足学園音楽大学ピアノ科 非常勤講師)

【曲目】ショパン作曲 ノクターン op.15-2 など

【予約】事前のご予約が必要です(各部先着50名)

徴古館報 第34号 2017年(H29) 7月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX (0952)23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp

URL <http://www.nabeshima.or.jp>